

**JICA 教師海外研修（教育行政コース）  
実施要領（案）**

JICA 広報部  
地球ひろば推進課

**1. 目的**

- ・ 全国の教育委員会および学校管理職（校長、教頭等）の教育行政関係者を対象に、研修参加者が新学習指導要領「持続可能な社会の創り手」の育成を念頭に、国際理解教育／開発教育への理解を深める。
- ・ 研修参加者が知見や情報の共有を通じて、学校および各地域の教育関係者に対する国際理解教育／開発教育の理解促進を図る。
- ・ 研修参加者が本研修を通じて、教育現場における多文化共生促進に寄与する。
- ・ 研修参加者が本研修の成果を活用し、継続的に学校管理職および教育行政関係者間のネットワークを構築する。

**2. 対象**

都道府県、政令指定都市及び市町村の教育委員会において初等中等教育を担当する者・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校（校種は限定しない）の学校管理職（校長、教頭等）・文部科学省において初等中等教育を担当する者

**3. 主催**

独立行政法人国際協力機構（JICA）

**4. 後援**

外務省、文部科学省（予定）

**5. 研修人数**

30名程度（15名×2か国に派遣予定）

**6. 研修期間・派遣国（予定）**

派遣予定国	未定
事前研修（国内研修・市ヶ谷）	9月上旬
海外研修	11月中旬
事後研修（国内研修・市ヶ谷）	翌年1月中旬
業務展望レポート提出	翌年年2月初旬

- ・ 海外派遣における発着地は東京とする。

**7. 参加資格**

以下の要件をすべて満たす者。

- (1) 所属長からの承諾を得た者
- (2) 「2. 対象」のいずれかに該当する者
- (3) 研修国の事情を勘案した上で、参加するに耐えうる健康状態である者

- (4) 国内研修（事前・事後）及び海外研修の全行程に参加できる者
- (5) 帰国後の業務に広く研修成果を活用いただける者

## 8. 研修内容

- (1) 事前研修（1日、於：JICA 地球ひろば・市ヶ谷）
  - (ア) 研修目的及び日程、派遣国事情
  - (イ) 参加者自己紹介・課題意識の共有のためのグループ討議
  - (ウ) 安全対策、健康管理
  - (エ) 渡航手続き、保険、参加者間の役割分担、提出物
  - (オ) 国際協力の現状と課題
  - (カ) 国際理解教育/開発教育について
  - (キ) 過年度参加者による帰国後の取り組み紹介
  - (ク) JICA の事業概要・JICA 組織/担当窓口、地域の国際理解教育/開発教育人材等
  - (ケ) JICA 地球ひろば施設紹介
- (2) 海外研修
  - (ア) JICA や NGO が行う国際協力の現場視察及び関係者との意見交換
  - (イ) 現地の文化、生活、社会事情・開発課題に関連する場所の視察
  - (ウ) 教育や現地の文化・生活等に関する資料の収集
  - (エ) 現地の学校や教育行政機関の訪問及び教育関係者との意見交換
- (3) 事後研修（1日、於：JICA 地球ひろば・市ヶ谷）
  - (ア) 海外研修の振り返り
  - (イ) 研修成果を担当業務へ活用するためのアクションプランについて討議

## 9. 報告書の作成・提出

参加者が事後研修で討議したアクションプランについて、JICA 国内拠点と連携した実現可能なものとするため、事後研修後に参加者と JICA 国内拠点担当で協議を行う。協議結果を踏まえ、「業務展望レポート」（指定様式有）を JICA 地球ひろば所長宛に提出する。

JICA は上記レポートをまとめたものを 2020 年 3 月上旬までに教師海外研修報告書（外部配布用）として作成する。

## 10. 研修参加費用分担

- (1) 研修に要する経費のうち、次の経費を規定に従い JICA が負担する。
  - (ア) 国内研修にかかる旅費
  - (イ) 海外渡航費（空港使用料、空港税等含む）
  - (ウ) 現地視察に要する交通費等
  - (エ) 海外旅行保険加入費
  - (オ) 国内・海外研修で前・後泊が必要な場合の宿泊費（※1）
    - ※1：研修出発にあたり、自宅を午前 6 時前に出発しなくてはならないフライトを利用する参加者については、前泊宿泊費の支給対象とする。その際には、内国旅費規程に定められる専門家 6 号の金額を適応とする（後泊の場合も同号を適応）。
  - (カ) 海外研修の経由地で宿泊が必要な場合の宿泊費（※2）
    - ※2：経由地において 6 時間以上滞在し、宿泊施設を利用する場合、実費支給（旅費規程に定める

宿泊料定額を上限とする)する。事前に旅行会社を介して宿泊手配をした場合の旅行会社の請求に基づき、国際協力人材部派遣管理第二課にて支払う。

- (2) (1)を除き、海外研修期間の宿泊費(前・後泊、経由地での宿泊費を除く)、その他必要な経費は、参加者が負担する。

## 11. 留意事項

- 参加者と JICA 国内拠点担当者は、原則、海外研修の前と事後研修後に、参加者が所属する機関の施策・取組、JICA が実施する開発教育支援事業、研修の成果・アクションプラン等について情報・意見交換等を行う打合せを行う。
- JICA が国内にて実施する開発教育指導者研修・教師海外研修報告会・その他教員向けの各種研修・セミナーへの参加、アクションプランの具体化等、研修後の継続した取組を推奨する(国内拠点による研修等への活用や参加勧奨など積極的な取組も推奨する)。
- 研修の翌年度にアンケートを実施し、研修成果の継続的な活用についてフォローアップを行う。

以上

2021年度 JICA 地球ひろば「多文化共生の文化」共創プログラム  
募集要項

### 1. 背景

国際協力機構（JICA）は日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関であり、約 150 の国・地域で国際協力を展開しています。日本国内においては、これら国際協力を通じて得た知見を生かし、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す新学習指導要領などの学校教育の動向を踏まえ、「教師海外研修」「エッセイコンテスト」「施設訪問」「出前講座」「開発教育メールマガジン」「開発教育教材作成」など、学校、教員及び児童生徒を対象に国際理解教育/開発教育を支援する様々な事業を行っています。

近年、日本に在留する外国人は増加の一途をたどっており、外国にルーツを持つ児童生徒も年々増加しています。本研修は、多文化共生の場や学びがより強くもとめられている現状をふまえ、児童生徒を取り巻く学校を中心とした社会で、どのようにして多文化共生を進めていけばよいのかを考えるプログラムです。

### 2. プログラムの目的

国際理解教育/開発教育に関する授業実践や、外国ルーツの児童生徒を受け持って様々なことに取組んだ経験を持つ教員が、児童生徒やクラス・学校におきた変化・変容等のそれぞれの経験を共有し、お互いに学びを深めます。そして、児童生徒が多文化共生を学ぶための場づくりをどのようにして進めればよいのか、学校における「多文化共生の文化」を育むためのヒントや取組みの事例を全体として取りまとめ、共有するための冊子を作成します。

### 3. プログラムのテーマ

「多文化共生の文化」を作るために、私たちにできることは何か？

### 4. スケジュール

	日程	内容
第1回 オンライン	2021年11月7日（日） 13:00-17:00	・プログラム趣旨・全体の流れ説明 ・アイスブレイク ・講演：未来に続く「多文化共生」を実現する文化づくり（仮） ・ダイアログ（学校と多文化共生についての対話）
第2回 対面研修（1 日目） @JICA 横浜	2021年11月27日（土） 13:00-18:00	・神奈川県横浜市内フィールドワーク （多文化共生の取組をしている学校もしくは近隣地域への訪問を予定）
第2回 対面研修 （2日目） @JICA 横浜	2021年11月28日（日） 9:30-15:00	・ダイアログ（テーマ：これからの学校、多文化共生の文化を作るとは？何が必要なのか？学校・地域でどのような取組みが多文化共生を推進するのか？） ・全体共有（グループごとのプレゼンテーション&フィードバック等）
第3回 オンライン	2021年12月12日（日） 13:00-17:00	・チームごとのダイアログ ・発表・フィードバック・質疑応答 ・ネットワーキング

	2022年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム成果品（冊子）作成用原稿提出</li> <li>・各自の実践事例および「多文化共生の文化」を作るアイデアをまとめる</li> </ul>
--	---------	---

※状況に応じ対面研修をオンライン研修に変更する場合があります。

※プログラム詳細は、参加者決定後、運営事務局から別途ご連絡します。

## 5. 実施体制

主催：独立行政法人国際協力機構（JICA）広報部地球ひろば推進課（JICA 地球ひろば）

運営事務局：一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）

※研修の円滑な実施運営のため、JICA が委託する外部機関で構成する運営事務局を設置し、同事務局を通じ、研修参加者に対する連絡・調整を行います。

## 6. 募集人数

約 10 名（予定）

## 7. 応募要件

開発教育や多文化共生に関する授業実践や取組を行っている全国の教員及び学校管理職

※応募者多数の場合、地域、校種、応募理由書の記載内容を参考に、全体のバランスを考慮し、参加者を決定します。

## 8. 応募方法

（1）以下の応募特設サイトにアクセスし、①必要事項を記入、②応募理由書を添付、③実践・取組事例を添付のうえ、ご応募ください。

応募特設サイト URL： <https://j-gift.org/2021jica-tabunkakyosei-appform/>

（2）応募理由書（必須）

本研修への応募理由・動機、本プログラムに期待すること等について、Word 等で作成し、ファイルを応募サイトに添付してください（500～800 字程度）。

（3）実践・取り組み事例（必須）

これまでに自身が行ったり関わったりした開発教育や多文化共生に関する授業や取り組みについてわかる資料を、応募サイトに添付してください（書式自由）

（4）応募締切

**2021年10月10日（日）24：00**

## 9. 参加決定について

10月中旬までに JICA 地球ひろば・教員向け研修運営事務局より応募者全員にご連絡します。

## 10. 参加費用

以下の経費について、当機構の旅費規定に基づき、JICA が負担します。

① 本研修参加のための国内移動（自宅～研修場所）にかかる旅費（経済路線）

- ② 宿泊費は8,200円/泊を上限としてJICAが負担します。(超過分は自己負担) ※その他、研修に参加される際の食費、個人的費用については参加者本人の負担となります。

#### 11. その他

- ・ 本プログラムを通じて作成する冊子は、全参加者に共有いたします。また、広く他の教員にも参照・活用されるよう、配布するほか、JICA 地球ひろば HP、メールマガジン、その他各種広報誌等を通じて紹介する場合がありますので、ご協力をお願いいたします。
- ・ JICA の開発教育/国際理解教育事業のさらなる充実、改善に生かすため、後日アンケートへの協力をお願いすることがあります。
- ・ 個人情報に関するお願い

JICA では、学校教育を支援する取組として、雑誌・書籍への寄稿・取材、教材制作へのアドバイス等に参加者の協力を依頼しています。また、JICA 開発教育メールマガジンへの登録をお願いしています。応募時に入手した個人情報は本プログラム以外に、利用の可否を確認のうえで、上記の目的のために利用させていただく場合があります。

いただいた個人情報は、JICA の内部規程（個人情報保護に関する実施細則）に基づき、適切に管理いたします。<https://www.jica.go.jp/joureikun/act/frame/frame11000019.htm>

以上

#### <問い合わせ先>

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

(JICA 地球ひろば・教員向け研修運営事務局)

住所：〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-15-19 MG 目黒駅前ビル 2 階

TEL：03-4577-6767 E-mail：[jica-edu@j-gift.org](mailto:jica-edu@j-gift.org)

2021年度 JICA 地球ひろば主催（後援：日本国際理解教育学会）

国際理解教育／開発教育指導者研修 募集要項

教室から世界へ「持続可能な社会の創り手」を育む授業実践  
～世界の課題・多様性をジブンゴト化～

1. 背景

国際協力機構（JICA）は日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関であり、約 150 の国・地域で国際協力を展開しています。日本国内においては、これら国際協力を通じて得た知見を生かし、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す新学習指導要領などの学校教育の動向を踏まえ、「教師海外研修」「エッセイコンテスト」「施設訪問」「出前講座」「開発教育メールマガジン」「開発教育教材作成」など、国際理解教育/開発教育を支援する様々な事業を行っています。

本研修は、2014 年度より「教師海外研修」に参加経験のある方を対象に、継続的な国際理解教育/開発教育の授業実践促進をねらいとして開始されました。現在は「教師海外研修」への参加経験に関わらず、国際理解教育/開発教育の授業実践に取り組み、各地域における国際理解教育/開発教育の推進役としての活躍が期待される全国の学校教員の方々を対象に実施しています。また、2018 度からは、専門的なアドバイスをいただくため、日本国際理解教育学会の協力を得て実施しております。

2. 研修の目的

誰もが安心して暮らせる「だれ一人取り残さない」社会づくりに関わる問題は、世界でも、地域でも、そして学校でも共通する課題です。

本研修では、このような背景を踏まえ、新学習指導要領の「持続可能な社会の創り手」の育成も念頭に、参加者の国際理解教育/開発教育に関する知見の蓄積や事例の共有、学習指導案の作成、授業実践を通して、教員としての専門性を高めることをねらいとしています。さらに、参加者が研修終了後も継続して、授業実践の紹介や、本研修で培われた教員ネットワークを生かして知見を共有することで、各地域の学校において、国際理解教育/開発教育の推進を図ることを目指しています。

なお、本研修では、JICA が用意している教員向けの様々な教材を積極的に活用して、授業実践を行うことが期待されています。

3. 今年度テーマ

**教室から世界へ「持続可能な社会の創り手」を育む授業実践～世界の課題・多様性をジブンゴト化～**

新学習指導要領において「持続可能な社会の創り手」の育成の重要性が明記され、教科書に SDGs（持続可能な開発目標）が多く掲載されるようになりました。子どもたちは未来に起こる様々な変化や、社会の多様性を柔軟に受け止め、その解決に向けて、自ら考え、行動する力を身に付けることが求められているのではないのでしょうか。

今回の研修では、このような背景を踏まえ、上記のテーマを設定しました。研修参加者は、教室の中のマイノリティ、日本で暮らす外国人、新型コロナウイルス感染症といった世界と地域の課題について取上げ、子ども達がジブンゴトとして捉えられるように、授業実践の更なるレベルアップに取り組んでいただきます。また、研修後は国際理解教育／開発教育の推進のために、学校・地域の人々と共に、リーダ

ーとして取り組んでいただくことも期待されています。

#### 4. スケジュール

##### (1) 前半研修（オンライン研修）

	日程	内容
前半研修 1回目	2021年8月1日（日） 14:00-17:00	【講義・ワークショップ】 新学習指導要領、授業素材・素材の使い方、学習指導案
前半研修 2回目	2021年8月21日（土） 14:00-17:00	【ワークショップ】 学習指導案骨子の共有&意見交換
中間ギャザリング 第1回	9月10日（金） 19:00-21:00	参加者交流・情報交換会（入退室自由）
学習指導案提出（個別）	9月21日（火）×切	ここまでの研修を踏まえ、学習指導案を作成・提出
中間ギャザリング 第2回	10月8日（金） 19:00-21:00	参加者交流・情報交換会（入退室自由）
中間ギャザリング 第3回	11月12日（金） 19:00-21:00	参加者交流・情報交換会（入退室自由）
フィードバック&コメント	10月～11月	アドバイザーからのフィードバック&コメント（個別）
授業案のブラッシュアップ	12月末までに適宜	フィードバック&コメントを基に学習指導案のブラッシュアップ、再提出（個別・複数回）
授業実践	12月末まで	各自所属校で授業実践（個別） （オンライン or 対面授業 状況に応じて）
報告書の提出	2022年1月4日（火）×切	授業実践実施後、事務局に提出

##### (2) 後半研修（対面研修 1泊2日 @JICA市ヶ谷ビル内会議室 予定）

	日程	内容
後半研修 1回目	2022年2月5日（土）午後	授業実践報告&意見交換
後半研修 2回目	2022年2月6日（日）終日	①公開セミナー（一般公開予定） 基調後援 & 研修参加者代表者による授業実践報告 ②講義・ワークショップ 国際理解教育／開発教育の普及・促進に向けての意見交換

※状況に応じ対面研修をオンライン研修に変更する場合があります。

※プログラム詳細は、参加者決定後、運営事務局から別途ご連絡します。

#### 5. 実施体制

主催： 独立行政法人 国際協力機構（JICA）広報部地球ひろば推進課

運営事務局： 一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

後援： 日本国際理解教育学会

※運営事務局：研修の円滑な実施運営のため、JICAが委託する外部機関で構成する運営事務局を設置し、同事務局を通じ、研修参加者に対する連絡・調整を行います。



## 6. 募集人数

約 20 名（予定）

## 7. 応募資格

以下の参加資格要件を全て満たす方を対象に募集します。

- ① 国際理解教育/開発教育の授業実践経験がある小・中・高校、特別支援学校に勤務する教員であること。
- ② 本研修の趣旨・目的を十分理解し、上記の研修期間・研修プログラムに参加可能であること。  
※オンライン会議ツール(Zoom を想定)を用いた研修実施に対応可能であること。(Wi-Fi 環境、PC など)
- ③ テーマ【教室から世界へ「持続可能な社会の創り手」を育む授業実践～世界の課題・多様性をジブンゴト化～】に沿って学習指導案の検討、作成、授業実践、実践報告に意欲的に参加すること。
- ④ 本研修を通じて得られた学び・成果を所属する学校内及び各地域の教育委員会、各種教員ネットワーク（研究会、勉強会等）の場において積極的に共有・紹介する意欲のあること。
- ⑤ JICA 国内拠点や各県所在の JICA デスク（国際協力推進員）等と連携・協力しながら、授業実践の紹介やセミナー・研修にも携わり、開発教育/国際理解教育の普及促進に貢献する意欲があること。

※過去に本研修に参加経験のある方も歓迎します。

※応募者多数の場合、地域、校種、参加動機、過去の実践経験・実践事例、希望するテーマ等の全体バランス等を考慮の上、参加者を決定いたします。

## 8. 応募方法

- (1) 応募特設サイトにアクセスし、必要事項を記入、以下(2)提出書類を添付の上ご応募ください。

応募特設サイト URL : <https://j-gift.org/2021jica-domestic-training-appform/>

※特設サイトからの応募に支障がある場合は、別添の応募用紙（エクセル）に必要事項を記入し、以下(2)提出書類とともに、以下 JICA 地球ひろば・教員向け研修運営事務局宛に Eメールにてご提出ください。

・運営事務局 Eメールアドレス : [jica-edu@j-gift.org](mailto:jica-edu@j-gift.org)

- (2) 提出書類（※応募時に提出いただいた書類は、返却しませんのでご注意ください。）

### ① 志望動機（必須）

本研修への応募理由・動機、研修に期待すること等について、Word 等で作成し、ファイルを応募サイトに添付してください（500～800 字程度）。

### ② 授業実践事例（任意）

国際理解教育・開発教育の授業実践の経験について（上記7-①）、指導案もしくは授業案を添付してください。（可能であれば過去1年以内）※書式は問いません

### ③ 応募締切 **2021年6月30日（水）24：00**

## 9. 参加決定について

7月下旬迄に JICA 地球ひろば主催「国際理解教育/開発教育指導者研修」運営事務局より応募者全員にご連絡します。

## 10. 参加費用

以下の経費について、当機構の旅費規定に基づき、JICA が負担します。

- ① 本研修参加のための国内移動（自宅～研修場所）にかかる旅費（経済路線）
- ② 宿泊費は 8,200 円/泊を上限として JICA が負担します。（超過分は自己負担）

※その他、研修に参加される際の食費、個人的費用については参加者本人の負担となります。

## 11. その他

- ✓ 本研修を通じて作成された学習指導案や授業実践報告資料一式は、研修参加者間の相互の学びのため、全研修参加者に共有いたします。また、広く他の教員の方々にもご参照・活用いただけるよう、JICA 地球ひろば HP、メールマガジン、その他各種広報誌等を通じてご紹介させていただく場合がございますので、可能な範囲でご協力をお願いいたします。
- ✓ JICA の開発教育/国際理解教育事業及び研修のさらなる充実、改善に生かすため、後日アンケートへのご協力をお願いすることがあります。
- ✓ 個人情報に関するお願い  
※JICA では、学校教育を支援する取組として、雑誌・書籍への寄稿・取材、教材制作へのアドバイス等に研修参加者の皆様のご協力をいただいております。また、研修参加者の皆様に研修やイベント参加の情報提供を行っております。
- ✓ 応募時にいただいた個人情報は本研修以外に、利用の可否を確認のうえで、上記の目的のために利用させていただきます場合がございます。いただいた個人情報は、JICA の内部規程（個人情報保護に関する実施細則）に基づき、適切に管理いたします。

<https://www.jica.go.jp/joureikun/act/frame/frame110000019.htm>

以上

別添：応募用紙フォーマット(Excel)

### <問い合わせ先>

一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

(JICA 地球ひろば・教員向け研修運営事務局)

住所：〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-15-19 MG 目黒駅前ビル 2 階

TEL：03-4577-6767 E-mail：[jica-edu@j-gift.org](mailto:jica-edu@j-gift.org)